

第50回日本母親大会

全国の母親・女性たちのくらしへの願いを平和とむすびあわせて50年。笑まれば元気、話し合えば勇気がでる母親大会へ、誘い合わせて集まりましょう。

<大会日程>

◆1日目 分科会

8月21日(土) 11:00~16:30

獨協大学(埼玉・草加市)

子ども、福祉、くらし、権利、平和などさまざまな問題をテーマ別に話しあいます。

◆2日目 全体会

8月22日(日) 10:00~15:30

有明コロシアム(東京・江東区)

*記念講演*アグネス・チャンさん

◆申し込み、問い合わせ先

第50回日本母親大会実行委員会

tel:03-3230-1836

女性協拡大常任委員会

雇用形態の多様化がテーマ

(((7月3、4日・東京)))

7月3、4日金労連会館(東京)で女性協議会拡大常任委員会が開かれ、九地連一支部総勢一五人が参加した。

川村女性協担当中央執行委員からの最近の情勢報告のあと、各地連女性協議長から各回の総括などの報告がなされた。401号導入の提案などの動きも頭着で、なかなか女性性に関する取り組みができていないという組合が多かった。全国的な情勢として新入社員の減少、同時に契約・派遣社員の増加が著しく、組合や女性の働き方



各単組から春闘総括の報告も



女性協議会

行った。分科会の時間が短いという意見が多く、それぞれのニーズの探さ、高さに対応するために分科会への期待が高まっていると思われる。今回の九州大会では、今一度組合に求められているものを問い直すことを確認した。

続いて、日本女子大学人間社会学現代社会科学教授の大沢真知子さんが「21世紀の働き方と家族」と題して、75年からアメリカに在住し経済学の教鞭をとっていた経験をもとに、女性の雇用をグローバルに捉える講義を行い、議論した。アメリカの女性進出のきっかけとなったファミリー・タイフレーション(Family Ties)は「結果の平等」を求めており、日本の「均等」ではあるが「平等」ではない「雇用機会均等法」と大きく違っている。アメリカの近年の発展は「優秀ではなく、多様な価値観が社会に参画すること」で支えられたのではないだろうか。

日本では結婚や出産で専業主婦になる比率が高く、アメリカは、出産後に「正社員」の短時間勤務」を選択する比率が増えるが、専業主婦になるのは少数である。欧米でも規制緩和によって雇用形態が多様化しているが、日本の「パート労働」とは異なっている。

昨年度日本のGEM(ジエンダーエンパワメント指数・女性政治及び経済活動に参加し、意思決定に参加できるかどうかを測るもので、①国会議員の男女

比率の管理職の比率・技術職の比率③推定勤労所得差から導き出される指数が前回三位から四位に下落したが、日本ではパート労働を含め所得格差が広がっていることがその一因ではないか。各国では現在「パート」の条件をあげて「正社員」に近づける努力がなされている。多様な雇用の選択という世界の流れの中で、日本でも正規雇用は減っているが全体の雇用は増えている。今や「フルタイムの正社員」の働き方も含めて、考え直す時代なのではないか?という問いかけに、組合活動としての今後のあり方を考えさせられた。「優秀で勝ち残ってきた人々と同じ方向をむいて奮闘すること」が必ずしもよい結果をもたらさないと誰もが感じているはずである。「多様な価値観の社会参加」を求めることがすなわち、いろいろな働き方を容認し、男女ともに働きやすい社会の実現に近づく道ではないだろうか?

二日目は、地連からの報告などのあと、ジャパン・インテックの松本さんの解雇撤回、職場復帰を求める団体署名の依頼と日本航空客室乗務員組合から深夜業務免除裁判についての支援申し入れがあった。雇用しながらも、時には給与がマ

イナスになるという勤務実態は働く権利をもてあそばせることなし、H.P.上のかのような、容認できないものではない。最後に、今後の諸手当調査についてデータでの回収に絞ることとし、H.P.上の掲示を充実させていくためにみなさんへの協力をお願いすることを確認した。